

【教員氏名】

原山 煌

【単位数】

2 単位

【演習概要】

21 世紀に入って中華人民共和国の内政・外交には、貧富の格差の拡大、覇権主義的な拡張政策、政府内部の深刻な腐敗など、深刻なほころびが生じ始めている。国内で多発する暴動がそれを雄弁に物語っている。この授業ではそうした諸矛盾のうち、「民族問題」を取り上げる。唯一の社会主義大国として、中国政府（＝中国共産党）はこの問題にどう向き合ってきたのか？ その歴史的経緯を追い、内陸の3つの巨大な「民族自治区」であるチベット、新疆ウイグル、内モンゴルの3地域を考察対象として、この国が抱えている難題を分析しよう。

【学習目標】

まず、多民族国家中国がどのようにして形成されてきたかを歴史的に考え、最後の中華帝国である清朝時代から中国共産党が一党独裁体制を完成させてゆく過程で、いわゆる「少数民族」がどのように扱われてきたのかを明らかにする。その上で、前記3自治区における主人公であるはずのチベット・ウイグル・モンゴルの人たちがどのような不満を抱えているのかを、具体的に見てゆく。

【講義計画】

第1回：オリエンテーション：この授業について、扱われるテーマ、授業の進めかた、評価の方法などを詳しく説明する。
受講希望者は必ず出席し、この説明を了解したうえで、受講登録をすること。折にふれて配布資料を提供するので、なくさないようにして毎回持参すること。

第2回：中国とはどんなところか。

第3回：「中華思想」の形成

第4回：「中華」と「夷狄」の関係

第5回：最後の中華帝国「清朝」における異民族政策

第6回：清朝崩壊から中華人民共和国－民族政策を主眼に－

第7回：その続き

第8回：中国の諸民族にとっての大受難期「文化大革命」

第9回：実例分析①「西藏自治区」の事例

第10回：その続き

第11回：実例分析②「新疆維吾爾自治区」の事例

第12回：その続き

第13回：実例分析③「内蒙古自治区」の事例

第14回：その続き

第15回：3自治区の民族矛盾の比較検討

【成績評価の方法】

試験評価：50%

残りの50%は、毎回の小テストの回答で評価する。小テストは、ノートを取りながら真剣に授業に取り組めば、容易に答えられる事が問われる。それが評価の半分を占めるのだから、是非小テストで地道にポイントを稼いでほしい。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

王柯『多民族国家中国』（岩波新書）岩波書店

【準備学習の指示】

常日頃から新聞、ネットなどから、中国の動静を見ておくこと。